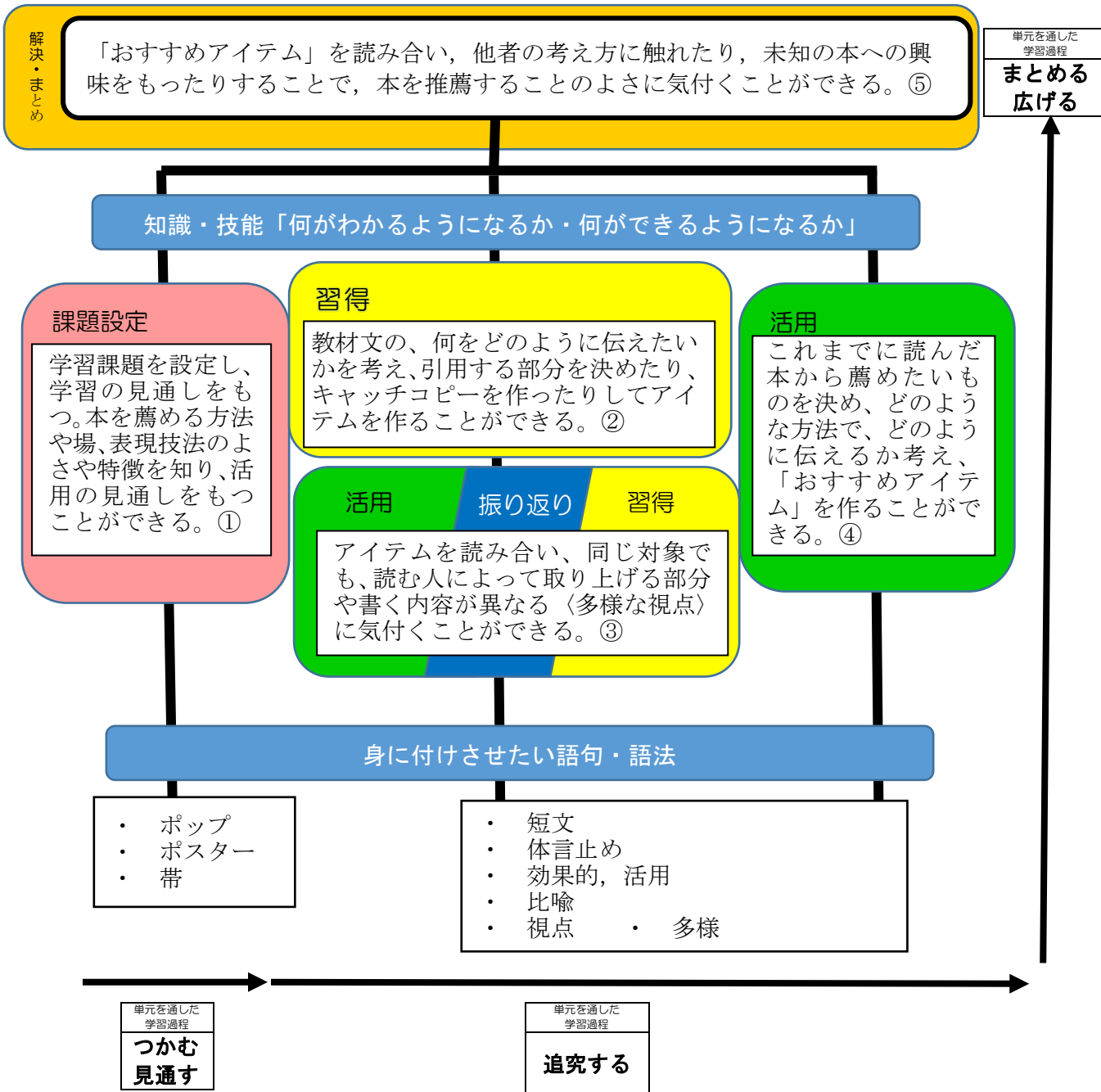


学年	教科	単元名	児童	場所	指導者
5年	国語	本は友達	5年1組38名	5年1組教室	石塚 泰鑑

1 単元について

単元マップ

子どもの深い学びの姿
読書によって多様な視点から物事を考えることができるようになることに気づき、進んで読書をし、思いや考えを広げ深めようとする。



本単元で育てたい資質・能力

【知識・技能】

- 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと。

【思考力・判断力・表現力等】

- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。
- 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。

【学びに向かう力、人間性等】

- 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうという態度を養うこと。

単元・題材について

C オ, カ 言語活動例 イ

オは、3, 4 学年を受けて、「文章を読んで自分の考えをまとめる」ことを示している。5, 6 学年では、感想や考えをもつことに加え、それらをまとめることに重点を置いている。また、カは、意見や感想を共有することを通して、自分の考えを広げることに重点を置いている。

本単元では、本を読んで考えや感想をもち、それらをまとめたり、共有したりすることで、自分の考えが広がるという読書の楽しさや魅力を知り、日常の読書活動を充実させることをねらい、ポップや帯、ポスター等を作成し、本を推薦したり、推薦されたりする活動を設定する。

児童の実態

学習意欲が高く、学習課題を自ら設定し、それに向けて見通しをもち、主体的に学習に取り組むことができる児童が多い。「国語の学習が好き」という児童は、約78%である。「読書」に限って言えば、85%以上が「好き」と答えており、関心・意欲が非常に高いと言える。読書習慣が身に付いており、休み時間等に自ら本を選び、積極的に読書をしている児童が多い。反面、学力テストの結果、「読む」領域の正答率は、約45%であった。読書意欲、読書習慣と「読む力」が結びついていないとすることができる。

叙述や描写から登場人物の心情や場面を想像する力が未定着であるため、読書の際には、観点（登場人物を整理する、情景を想像する、心情変化に着目する等々）を提示したり、「事実」「意見」「心情」等に傍線を引いたりするよう指導してきた。

『なまえ つけてよ』の単元では、観点をもって教材文を読み、登場人物の関係や心情の変化をとらえさせた。そして、自身が抱いた思いや考えをもとに「紹介文」を書き、交流する活動を取り入れた。そうすることで、自身と本とのつながりを改めて実感したり、読書の成果を他者へ伝えたりする『読書の楽しさ』を味わわせることができた。

本単元を通して、読み手の心を豊かにし、自身を支えてくれたり、他者との関わりを深めたりするという読書の魅力を実感し、進んで読書をして、思いや考えを深め、広げていくために読書生活を充実させようという意識を高めたい。

単元の目標

- 複数の本や文章を読んだ中から、薦めたい本を選ぶことができる。
- 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

単元の指導について

4年生までで、「いろいろな本や文章を選んで読む」という選書能力を身に付けているが、高学年では、「目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと」が指導事項となっている。「比べて読む」ことで、それぞれの本の魅力を味わったり、作者・筆者の違いによる視点・認識の違いに触れたりすることができ、更に読書の魅力を見付けることができる。

本単元では、本を薦めるため「アイテム」（ポスターやポップ、帯など）をつくって読み合い、本を推薦したり、推薦されたりすることのよさを知り、読書の魅力を実感させることをねらう。

「つかむ・見通す」段階では、学級及び全校の図書室利用状況が昨年度と比べ、微減していることを知らせ、更に多くの児童に本を読んでもらう方法を考える。「アイテム」を作ることを通して、『読書の魅力』を皆に伝えるという学習活動を設定するそうすることによって、『本を薦め合って、読書の新たな魅力を見付ける』という学習課題を把握し、「読書を通して、考えを広げ深めていく」というゴールイメージを見通すことができる。この段階では、『なまえ つけてよ』の単元で学習したことを想起させ、「より効果的なおすすめアイテムを知る」「おすすめポイントの見つけ方を考える」「おすすめの本を自分の決めた方法で推薦する」という学習過程の見通しももたせる。

「追究する」段階では、教材文『千年の釘にいどむ』を用いて、「その文章の、何をどのように伝えたいか」について考え、「引用」するところを見付けたり、「キャッチコピー」を作ったりして、アイテムを作る。その後、感想や気づきを交流することで、同じ対象でも、人によって、伝えたいことや引用したい箇所が異なることに触れ、『視点の多様さ』に気付かせる。そして、実際に自分の『おすすめの本』を、「引用文」「キャッチコピー」といった技を使いながら、あらためて、「より多くの児童に本を読んでもらうという『相手意識』『目的意識』」をもたせ、アイテムを作っていく。

「まとめる・広げる」段階では、作ったアイテムを読み合って、本を推薦することのよさに気付かせる。そうすることで、同じ本でも多様な視点に触れられたが、異なる本を対象とすることで、興味の幅が広がったり、読書活動を振り返ることで自身の考えの変容が実感できたりするという読書の魅力を理解することにつながる。

単元の評価規準

【関心・意欲・態度】	【知識・理解】	【思考力・判断力・表現力等】
本を友達に薦めるといふ活動に興味をもっている。	読書	読むこと
	本を推薦したり、推薦された本を読んだりすることで、自分自身の読書生活がより豊かになることに気付く。	① 本を推薦する文章を書いて読み合うことを通して、自分の思いや考えを広げている。 ② 本を推薦するために、複数の本を読んだり、読んだ本の中から選んだりしている。

子どもの深い学びの姿

読書によって多様な視点から物事を考えることができるようになることに気づき、進んで読書をし、思いや考えを広げ深めようとする。

2 単元の指導計画

【 5時間扱い 本時 3 / 5時間】

段階	時	○ おもな学習活動 ・ 具体的内容 □ まとめ	【】 教師の評価規準 (評価方法) ◇ 到達が不十分な児童への指導の手立て
つかむ・見通す	1	<p>○ 学習課題を決め、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度の図書室の利用状況を知る。 ・ 学級全体の読書時間を知る。 ・ 読書に親しむため読書の魅力を知ろう。 <p>課題：本を薦め合って、読書の新たな魅力を見つけよう。</p> <p>○ 本の推薦方法 (アイテム) や本の紹介の場、技を知り、よさや特徴を見付ける。</p> <p>＜アイテム＞ポスター、ポップ、帯 ＜場＞特設コーナー、ブックトーク ＜技＞引用、キャッチコピー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 比較し、それぞれのよさを見付ける。 <p>目的・意図に合わせて、方法や技を選んで、本をおすすめする。</p>	<p>【関・意・態】</p> <p>自分のおすすめの本をよりよく伝えようという意欲をもち、学習計画を立てている。(話し合い、ノート)</p> <p>＜思考を活性化させるアクティブ化ポイント①＞ 実体験を想起し、交流させることで、「読書」に意欲的に、主体的に向かい、学習のゴールの見通しをもつことにつながる。【思A-②】</p> <p>【思・判・表等】②</p> <p>本を薦める方法とその特徴、よさを見付けている。(発表・ノート)</p> <p>◇ 事前に作成した表を渡し、枠に書き込めるようにする。</p>
追究する	2	<p>○ 推薦の仕方 (伝えたいこと、表現の工夫) を確かめ、教材文を推薦する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どんなことを伝えたいかや、推薦するための言葉や文章の表現をどう工夫するとよいかを考えることが大切であることを知る。 ・ 「千年の釘にいどむ」の推薦の仕方を考え、アイテムを作る。 <p>『なまえつけてよ』でお話の紹介をした時の方法が使える。</p> <p>おすすめしたい部分や伝えたいことをはっきりさせて、表現方法を考える。</p>	<p>【思・判・表等】②</p> <p>「千年の釘にいどむ」の伝え方を考えて、引用する部分を決めたり、キャッチコピーを作ったりしている。(ノート・発表)</p> <p>＜思考を活性化させるアクティブポイント②＞ 目指す作品づくりの前に、教材文を使ってアイテム作りをすることで、読書の視点を確認し、後の活動の見通しをもつことができる。【思A-⑦⑩】</p> <p>◇ 引用できない、キャッチコピーが思いつかない場合、聞き取りを行い、心に残った部分や感想を話させる。</p>
追究する	3	<p>○ 友達が作ったアイテムを読み、同じ対象でも、多様な見方があることに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 班で、おすすめアイテムを読み合う。 <p>＜読み合いの観点＞</p> <ul style="list-style-type: none"> * 引用部分 * 注目点 * キャッチコピーの内容 等 <p>・ 読み合って気付いたことを話し合う。</p> <p>＜話し合いの観点＞</p> <ul style="list-style-type: none"> * 引用部分の同異点 (引用の理由も) * 内容の比較 (注目点とその理由も) * 表現の仕方の違い 等 <p>・ それぞれのアイテムを、注目したところによって仲間分けすることができることを知る。(視点による分類)</p> <p>同じ本でも、いろいろな視点から読むことができる。←本の魅力の1つ</p>	<p>【知・理】</p> <p>作ったアイテムを読み合い、視点の多様さに気付いている。(ノート・発表)</p> <p>＜思考を活性化させるアクティブポイント③＞ 観点を定めてアイテムを読ませることで、同じ対象でも多様な視点で読むことができることに気付くことができる。【思A-⑳】</p> <p>◇ 読み比べた感想を一言メモさせる。</p> <p>『千年の釘にいどむ』は、千年の前の建物のことや、釘が木に刺さっていくシステムのことが書いてある。歴史のことや物理のことがいろいろわかる内容だ。社会や理学的な読み方もできそう。</p>

	4	<p>○ 推薦方法を決め、作品(おすすめアイテム)を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達がおすすめの本を読みたくなるように、引用する部分を考えたり、キャッチコピーを作ったりする。 ・ 推薦したい内容が相手に伝わりやすい形式を考え、おすすめアイテムを作る。 	<p>【思・判・表等】① 薦めたい本を決め、推薦の方法・表現を考えて、作品を作っている。(作品・発表)</p> <p>◇ おすすめの本の好きなところを尋ね、それを基に考えるよう助言する。</p>
<p>本のよさを伝えるためには、読み手を意識して、技を使ったり、アイテムを工夫したりして、まとめるとよい。</p>			
まとめる・広げる	5	<p>○ アイテムを読み、「読みたい」と思った本を選び交流することで、読書の新たな魅力を見付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達のおすすめアイテムを読み合う。 ・ アイテムを読んで、読みたくなった本を決め、その理由を交流する。 ・ 本を推薦したり、これまで知らなかった本に触れたりする活動を通して、感じたよさをまとめる。 <p>・ 最初に考えていたこと以外にも、読書にはいくつもの魅力がある。もっと読書したい!</p>	<p>【知・理】 作ったアイテムを読み合い、推薦することのよさに気付いている。(ノート・発表)</p> <p>◇ 興味がありそうなアイテムを選んでやり、それを作った友達に質問させる。</p> <p><思考を活性化させるアクティブポイント④> 「読書の新しい魅力を見付ける」というねらいと「多様な視点から読むことができる」という読書の魅力を再確認し、アイテムを読ませる。それによって、友達の考えに触れることで、自分の考えや思いを広げることができることに気付かせる。【思A-⑳】</p>
<p>読書の魅力→多様な他者の考えに触れたり、自分の考えや思いを広げたりできること</p>			

パフォーマンスシート～学習の目標と見通し～
学習課題【本をすすめて、読書の新たなみ力を見つけよう】

第5時	第4時	第3時	第2時	第1時
学習内容	学習内容	学習内容	学習内容	学習内容
アイテムを読み合い、読書の新たな『みりょく』を見付ける。	おすすめする方法を決め、『おすすめアイテム』を作る。	「千年の釘にいどむ」のおすすめアイテムを読み比べる。	『アイテム』『技』を使って、「千年の釘にいどむ」のすいせん文を書く。	学習計画を立て、本のすいせん方法のよさや特ちょうを見付ける。
パフォーマンス	パフォーマンス	パフォーマンス	パフォーマンス	パフォーマンス
(L.V.1) アイテムを読んで、一言感想を書く。 (L.V.2) アイテムを読んで、すいせんすることのよさに気づく。 (L.V.3) 本をすいせんすることのよさに気づき、読書の新たなみ力を一つ見つける。 (L.V.4) 新たな知識や考えの変化に気づき、読書のみ力を一つ以上見つける。	(L.V.1) おすすめする本のおすすめしたいところを書く。 (L.V.2) おすすめする方法を決め、『おすすめアイテム』を作る。 (L.V.3) おすすめのポイントをはきりさせて、読み手を意識して、『おすすめアイテム』を作る。 (L.V.4) 自分の考えや思いの変容が伝わってくる『おすすめアイテム』を複数個作る。	(L.V.1) アイテムを読み比べて、感想をもつ。 (L.V.2) アイテムを読み比べ、それぞれ同じところやちがうところがあることに気づく。 (L.V.3) 読み比べると、同じところやちがうところがあり、読む人によって見方がさまざまであることに気づく。 (L.V.4) 友達のような見方のちがいを知り、それにかかれて、自分の考えが広がったり、変わったりする。	(L.V.1) 伝えたい部分をぬき出す。 (L.V.2) 文章のどういった点を伝えたいかを考え、文を書きとめたり、おすすめ文を作ったりする。 (L.V.3) 読み手を意識して、『技』を使って、「千年の釘にいどむ」のみ力をまとめる。 (L.V.4) 『技』と『アイテム』を使って、「千年の釘にいどむ」のみをよくわかりやすくまとめる。	(L.V.1) 本のすいせん方法がいくつもあることを知る。 (L.V.2) 学習の見通しを立て、アイテム、技などのよさや特ちょうを知る。 (L.V.3) 今後どんなことを学び、どんな活動をするかイメージし、自分の使えそうなアイテム、技の見通しを立てる。 (L.V.4) おすすめしたい本を決め、どんな方法でおすすめするかを具体的にイメージする。
ふり返り	ふり返り	ふり返り	ふり返り	ふり返り
-----	-----	-----	-----	-----
ふり返りの観点	ふり返りの観点	ふり返りの観点	ふり返りの観点	ふり返りの観点
変容 深化 広がり 発見 理解 できた! 交流 伝え合い その他 ()	変容 深化 広がり 発見 理解 できた! 交流 伝え合い その他 ()	変容 深化 広がり 発見 理解 できた! 交流 伝え合い その他 ()	変容 深化 広がり 発見 理解 できた! 交流 伝え合い その他 ()	変容 深化 広がり 発見 理解 できた! 交流 伝え合い その他 ()

3 本時の学習

(1) 目標

「千年の釘にいどむ」の推薦アイテムを読み合い、視点の多様さに気付くことができる。(読むこと)

(2) 展開【 3時間目 / 5時間扱】

* 思考アクティブ化シートB—③【活用重視】

	児童の活動	思考	□教師の働きかけ ◎主な発問 ◆評価(評価方法)
導入 2分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までを振り返る。 ・ <u>読書の魅力を見付けるために、おすすめアイテムを作っている。</u> ・ アイテム⇒ポップ、帯、ポスター等 ・ 技⇒引用、キャッチコピー ・ 「千年の釘にいどむ」で実践した。 ○ 本時の学習課題を確認する。 	全	□ 単元の学習計画を掲示しておく。 <思考を活性化させるアクティブポイント> 「読書の新しい魅力を見付ける」というねらいを再確認することで、ゴールイメージを明確にもつことができる。【思B-③-①】
「千年の釘にいどむ」のアイテムを読み合い、読書のみ力を見つけよう。			
展開 18分	<ul style="list-style-type: none"> ○ アイテムを読み合って、感想をもつ。 ・ 班で、おすすめアイテムを読み合う。 <アイテムを読む観点> ×… アイテムのできばえ(例:色づかい, 形, 丁寧さ等) ○… 書き方・内容面(例:推薦文の工夫, 引用文の使い方, キャッチフレーズの添え方等) 自分のアイテムとの比較 ・ 1分で読む→2分でメモを繰り返し, 班全員のアイテムを読む。	グループ 個	□ 班で「千年の釘にいどむ」の『おすすめアイテム』を読み合わせる。 ◎ 友達のアイテムを読んで, 気づいたことをメモします。読む時の観点を確認します。 <思考を活性化させるアクティブポイント> 観点を定めてアイテムを読ませることで, 友達の考えに触れ, 同じ対象でも多様な視点で読むことができることに気付くことができる。【思B-③-⑦】
展開 7分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 読み比べて気付いたことを話し合う。 ・ メモをもとに, 互いに質問して, 作者の意図や思いを知る。 ・ 読み比べて, 互いの同異点について話し合う。(仲間分けをしてもよい) ○ それぞれのアイテムを, 注目したところによって仲間分けできることを知る。(視点による分類) ○ 班で話し合ったことを発表し, 1つの本でも読み方が多様で, 視点が似ていたり, 異なったりすることを知る。 * 「人」に注目した人もいるし「伝統」に注目した人もいた。 * キャッチコピーがみんな違って面白かった。 * 引用文が同じ人がいて, 親近感がわいた。 	グループ	□ 班で, アイテムを読み合った感想を交流し, 活動を通して気づいたことをまとめさせる。 ◎ 班で, 読み合った感想を交流します。確認したいことがあれば, 作者に質問してください。 □ 全体交流し, 「同異点の存在」「視点の多様さ」に気づかせる。 ◎ 同じ話でしたが, アイテムを読むと, 同じ所だけではなく, 違う所がありました。読む人によって目の付け所が違うからです。これを『視点』と言います。
同じ本でも, 読む人によって, いろいろな視点がある。←読書のみ力			
展開 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分のおすすめする本をどういった観点で, どういったアイテムを使っておすすめすることで, 「読書の魅力」が伝えられるか考える。 	個	◎ 自分のおすすめしたい本の魅力を, そして, 読書の魅力を伝えるには, どういった観点で, どういったアイテムを作るか考えましょう。

終末 5分	○ 学習を振り返る。 ・ パフォーマンスシートに、自分の達成レベルと振り返りを書く。	全	【知・理】 作ったアイテムを読み合い、視点の多様さに気付いている。(ノート・発表)
----------	---	---	--

(3) 評価

【読むこと】

◇ 評価規準の具体 (評価方法：ノート，発表)

大いに満足できる (AA)： 読書の違いによる見方の多様さを知り、それに触れて、考えが広がったり、変容したりすることを実感する。

十分に満足できる (A)： 読み比べることで、作品の内容に同異点があり、読者の違いによる、見方の多様さに気づく。

おおむね満足できる (B)： アイテムを読み比べて、同異点があることに気づく。

努力を要する児童への指導： アイテムを作った友達に質問したり、一言感想を書いたりさせる。

(4) 板書計画

本は友達

⑦ 『千年の釘にいとむ』のアイテムを読み合い、読書のみ力を見つけてよう。

④ アイテムを読み合おう

① 一作品一分で読む。

② 感想や気づきを二分で書く。

③ 人数分くり返し。

〈観点〉 × 「できばえ」

色づかい、形、ていねいさ

○ 「内容」

文章がわかりやすい

引用文の使い方がいい

キャッチフレーズがうまい

好きなどころがわかる など

④ 読み比べて気づいたことを交流する。

〈気づいたこと〉

- ・ 「人」に注目した人もいるし「伝統」に注目した人もいた。
- ・ キャッチコピーがみんな違って面白かった。
- ・ 引用文が同じ人がいてうれしい。
- ・ 人の考えを知ることができた。

←

同じ本でも、読む人によって、いろいろな見方⇨視点がある。↑ 読書のみ力

『思考アクティブ化シートA(単元レベル)』

	子どもの思考の流れ	指導上の留意点 (必要に応じ選択)
<p>一 次</p>	<p>事象との出会い</p> <p>○具体的な体験や活動を通して学習対象やテーマへの興味・関心、疑問をもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〈個〉 あれ? どうして? どうやったの? すごい! おもしろい! やってみたい!</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〈一斉〉 みんなで解決したい! 確かめたい! 探したい!</p> </div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">*単元を通した「深い学び」につながる課題(単元のゴール)を明確に設定する。</p> </div>	<p>①子どものよりどころ(日常生活、生活経験、既習事項等)を事前調査等で把握する。</p> <p>②実体験(本物に触れる、見る、やってみる)や間接体験(資料や映像を活用)等共通体験場面を設定する。「ずれ」「あこがれ」「可能性」を感じさせる。</p> <p>③必要な場合は、基礎情報を集めさせる。</p> <p>④「発問」や「環境構成」を子どもに課題意識、目的意識が生まれやすいように工夫する。</p> <p>⑤子どもにとって「学習する必然性のある」「目的が明確になる」課題となるように工夫する。課題の共有化と協働で学ぶ意欲化を図る。</p>
<p>二 次</p>	<p>解決への見通しをもつ</p> <p>○自らが解決すべき課題を明確にする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〈個〉 ～をしらべたい。～を確かめてみたい。</p> </div> <p>○学習課題追究解決への見通しを立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〈個〉 ～すれば解決できそうだ。～を使って調べたい。～するためには～を知りたい。～するのにこれくらいの時間がほしい。</p> </div> <p>○計画を基に主体的に追究し、解決活動を行う。</p> <p>○協働的な学びを通して学びを深めていく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〈個〉自分は「何を」分かったのか ～は分かったけど、それなら～は?</p> </div>	<p>⑥〈個の思い〉から、〈学級全体の課題〉へと収束し課題を把握させる。(子どもの言葉を大切に)</p> <p>⑦学習の(ゴールへの)方向性や解決の方法、追究観点等のイメージを子どもにもたせる。(教科や領域に応じた見通しの内容や方法を選択する)</p> <p>⑧具体的な学習計画を子どもと共に立てる。</p> <p>⑨単元を通して育てたい資質・能力に沿って、調べ方、学び方を提示したり、子どもが(対象や方法)を選択したりする等、個に応じて対応する。</p> <p>⑩追究活動は、対話的な学習を意識して進め、まとめ方や小単元のゴールを意識させる。</p> <p>⑪追究活動では、試行錯誤できるように十分な時間を設定する。</p> <p>⑫目的に合わせて学習形態やグルーピングを工夫する。(必然性、目的意識、参画意識を重視する)</p> <p>⑬子どもの思考のスタイルや流れが「見える」ように工夫する。(付箋紙、ICT、各種ツールの活用)</p>
<p>三 次</p>	<p>新たな課題設定見直し追究解決</p> <p>○既習事項(小単元の追究)を基に、新たな課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〈一斉〉 そうなんだ! わかった! できた! でも、自分ならこう考えるな…?</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〈ペア・グループ〉対話を通して学ぶ ～は～ということだったよ。～するためには～すればいいんだ。～さんが言っているのは～ということだね。これでいいのかな? 他に方法や考えはないかな?</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〈一斉〉妥当性の検討、新たな知の創造 つまり～ということだね。例えば～だね。～ということが明らかになったね。</p> </div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">*単元のゴールとしての子どもの変容した姿を設定する。</p> </div>	<p>⑭できるようになったこと、分かったことを基に、新たな課題を設定する。(子どもの主体的な学びを大切に) ※教師の都合だけで進めない</p> <p>⑮具体的な追究計画を立て、解決への見通しをもつ。</p> <p>⑯必要な情報を集め、課題に即して思考ツール等を活用し整理する。「思考の流れ」が見えるように工夫する。</p> <p>⑰課題に即して、集めた情報を分析する。子どもの思考のスタイルや流れが「見える」ように工夫する。(付箋紙、ICT、各種ツールの活用)</p> <p>⑱「子どもの見取り」を適切に行い、個に応じた目標達成への支援を具体的にを行う。</p> <p>⑲自分の考えをしっかりとらせてから話し合わせる。</p> <p>⑳「ゆさぶり発問」や「本質的な問い」を工夫し、熟考させる。(批判的思考も重視する)</p>
<p>三 次</p>	<p>振り返り</p> <p>○単元を通して学んだことの意味を考え、自分の学びの成果を自覚する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〈個〉概念的意味を考える そうか。～はこういうことだったんだ。～だけではなく～から考えると～だね。</p> </div>	<p>? 学びの自覚化を促し、学びの有用感ももてるように工夫する。生活とのつながりを重視する。</p> <p>? 自分の獲得した知の妥当性と有用性を批判的に評価し、社会とのつながりを意識させる。</p> <p>? 各教科等の特性に合わせた深い学びを整理する。</p>

* 次構成は指導時数や領域・内容構成により柔軟に考える。

『思考アクティブ化シート B-③【活用重視】』

	子どもの思考の流れ	指導上の留意点（必要に応じて選択する）
導入 3～5分	<p>前時までの学習を想起する ○前時までに獲得した知識・技能等について確認し、課題意識をもつ。</p> <p>本時のめあて～深い学びにつながる、習得した知識・技能の活用や習得した知識・技能だけでは対応できないことを本時の問いとして明示する。</p> <p>解決への見通しをもつ ○既習の知識と組み合わせて課題を解決するために必要な情報を選択し、解決への方向や方法を見通す。</p>	<p>①本時の追究意欲や学ぶ必然性に関する知識・技能について確認する。</p> <p>②既習の知識だけでは解決できない新たな事実を提示することにより、課題解決への意欲をもたせる。</p> <p>③課題解決のために必要な条件などを明らかにする。</p> <p>④子どもがよりどころとなる資料や映像、助言等を行う。</p>
展開 20～35分	<p>追究・解決活動を行う</p> <p>個人 必要な資料を集めたり、操作したりして得られた結果や既習事項を整理、比較、分析等行いながら考えをもつ。 ○既習事項を確認する。 (自分とつながる)</p> <p>ペア・グループ 解決した方法や内容についてグループ等で表現し合い、自力解決した内容の修正や補強を行う。 ○対話的な学びを通して、比較、関係付け等を行いながら、自分なりの考えを見直す。 (多様な考えとつながる)</p> <p>全体 課題解決に向け、学級全体で既習内容や技能だけでは解決できなかったことについての考えを交流し合い、学習課題を解決する。 ○対話的な学びを通して解の妥当性、共通性、客観性等を総合的に評価して新たな知を形成する。</p> <p>個人 自らの言葉で課題解決した内容をまとめる。 ○自分の獲得した新たな知を言語化する。 (概念的知識としてつながる)</p> <p>まとめる</p> <p align="center">*獲得した知識を教師の意図的な意味付けを反映させ、一般化するよう工夫する。</p>	<p>⑤見通しの段階で提示された方法や既習内容・必要な資料等を示しながら、個々に一定の自力解決が図られるよう配慮する。</p> <p>⑥グループ内での発表会にとどまらず、方法や内容を互いに評価できるよう、短時間で視点を絞った交流とする等の工夫を行う。</p> <p>⑦個別に解決した内容が関連付くような問いや資料提示を行う。</p> <p>⑧解決した内容を揺さぶったり、視点を変えた見方を促したりするような資料や事実の提示を行い、思考が広がったり、深まったりするようなかかわり方をする。 (ゆさぶり発問、真を問う発問等)</p> <p>⑨課題に対して集団解決した内容を自分の言葉でまとめられるようにする。</p> <p>⑩生活や社会、未来とのつながりを意識した働きかけを行う。</p>
終末 3～5分	<p>自覚化する ○獲得した知識・技能や、身に付けた資質・能力を自覚したり、共有したりする。</p>	<p>⑪身に付いた資質・能力を自覚し、学びの有用感をもたらすような自己評価を行う。</p> <p>⑫各教科の特性に合わせた「深い学び」を意識した働きかけを行う。</p>